

研究事業 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)に関する研究事業 (エコチル調査コアセンター)

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 大規模で長期にわたる重要な調査研究事業であり、国際的にも重要な貢献ができると期待される。
- 専任の研究者の配置を検討する時期に来ているのではないか。

今後への期待など

- いかに調査対象者の脱落を防ぐかが重要になると思われ、そのための具体的な施策が求められる。
- 海外の同様の大規模コホート研究の中で、本事業が方法論の部分でどのような突出が可能なのか、また、どのように海外と連携するかについても示されるとよい。
- 新規の方法論の導入など、柔軟性のある研究事業の実施が望まれる。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①環境省、ユニットセンターなどの調査関係者のみならず、地域や関係学会等のステークホルダーとも連携しながら、成果の国際的な発信に努めて行きたいと思えます。
- ②現状では、兼務の研究者が多くのエフォートをエコチル調査に割くことによって、コアセンターにおける研究面での役割を果たしています。専任の研究者の配置については、日本における環境疫学者の絶対的な不足という問題があるものの、関係部署との連携を図りながら、安定的なコアセンター組織体制を構築していきたいと思えます。
- ③脱落を防ぐことは長期コホート研究において最も重要な課題であり、そのためには参加者とのコミュニケーションを充実させることが必要であるとの認識でこれまでも取り組んできました。コアセンターは広報活動としてニュースレターの定期的な配布を行うとともに、各地域のユニットセンターが行うさまざまなイベントの企画など、参加者との直接的なコミュニケーション活動や取り組みを支援し、取り組みの効果に関する情報交換をする場を定期的に設けて、調査対象者の協力維持に努めています。今後も取り組みをさらに進めて行きます。
- ④データの質が高く、かつデータ量についてもさまざまな仮説検証に耐えうるデータベースを構築した上で、解析方法の新たな展開や新たな観点を取り入れた調査内容に柔軟に取り組んでまいります。海外の同様な出生コホートとの連携体制はすでに構築しており、定期的な会合を通じて、先行するコホート調査の事例を参考にするなど、さらに連携を強化して、研究の展開を図ります。
- ⑤大規模調査はしばしば研究計画が柔軟性を欠き、あらたな研究展開が遅れがちになることが他の類似の調査でも指摘されています。ご指摘の点をしっかり認識して、重要なエビデンスが得られるように研究内容を見直しながら調査を進めたいと思えます。